

秋田公立美術大学 大学院 複合芸術研究科修士課程1年生 後期研究経過展

道端の雪に 星を見る

秋田市文化創造館3F スタジオA3 (秋田市千秋明徳町3-16)

□会期…2026.01.24(sat)-02.01(sun)

10:00-18:00(入場無料)※休館日01.27(tue)

□イベント〈金澤韻、青野文昭〉

02.01(sun)

10:30-12:00…金澤韻 特別講義 (1F コミュニティースペース)

13:00-14:30…青野文昭 特別講義 (1F コミュニティースペース)

14:50-17:00…公開講評(3F スタジオA3)

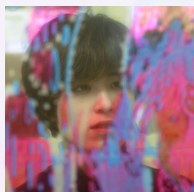
今年度前期に行った展覧会〈日々の縁(ふち)に手をそえる〉では、日常の輪郭、その“ふち”に現れる気配にそっと触れるような作品を提示しました。本展は、その視線を保ったまま、もう一步、踏み込む試みです。

秋田公立美術大学大学院複合芸術研究科修士課程に在籍する私たちは、この1年生の後期に、前期よりもはるかに多くの新しい環境や、新しい交流関係へとその足を伸ばしました。その道程や関わり合いの中で、新たな視座を得た者も少なくなく、前期で育んだ感性をもとに現場の課題と向き合い、それぞれの研究を社会へと開く活動を行っています。それを受けて、展覧会〈道端の雪に星を見る〉では、今までの歩みの中にあった小さな輝きをすくい取り、他者と結びつけることをテーマとしました。

本展が、皆様にとっても、日々の縁を越え、新しい世界のかげらに会うための、ささやかな契機となれば幸いです。

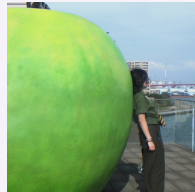
出展者 / 研究テーマ

アンドウ ヒカリ
安藤 陽夏里



風呂場の身体性

カ キキン
何 其欣



「風害」をメタファーとした
芸術的探究

カワツカ サナ
河塚 彩和



アルバムから立ち上がる
絵画の膜性

クワタ サキ
桑田 早綺



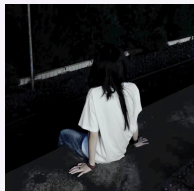
不可視の他者との
空間的共在

コ ヨジン
胡 喻仁



都市における神聖性

コウ スウ
胡 蘇



能動的な素材による知覚
と身体経験の生成を探る

サイトウ コマチ
齋藤 こまち



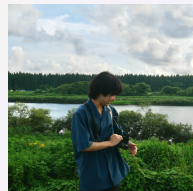
しなやかな心を育むため
にケアと教育を考える

シバタ ミツモ
柴田 光友



秋田の風習「ふだらく
(補陀落)」の再考

ナガテ カナタ
長手 奏汰



日常のまなざしかたの練習
と記録－型としての「展示」

ワタナベ ヤスユキ
渡邊 靖之



虫という他者と人との共存
を問うこと

ゲストプロフィール



現代美術キュレーター
金澤 韻 カナザワ コダマ

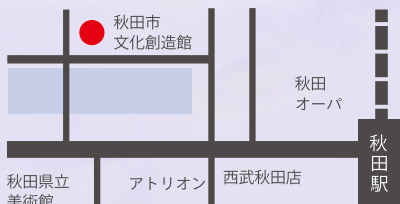
東京藝術大学大学院、英国王立芸術大学院大学修了。公立美術館勤務後、2013年に独立。2017～2020年、十和田市現代美術館学芸統括。近年企画・参画した主な展覧会に「Art Rhizome Kyoto 逆旅京都」(京都市内10箇所、2024、2025)、Gangwon International Triennale (平昌、韓国、2024)、「うそから出たまこと」(十和田市現代美術館、青森、2019)など。札幌国際芸術祭2027ではキュレーターおよびドラマトゥルクを務める。京都芸術大学(ICA京都)特任准教授。



美術作家
青野 文昭 アオノ フミアキ

1968年宮城県仙台市生まれ。90年代初頭より「なのおすことー循環」をテーマに活動し、「なのおす」行為を根源的かつ普遍的なものとして捉え直してきた。各地で収拾した欠片や廃棄物を接合・復元し、機能や形の回復にとどまらず、他者の記憶に向き合い新たなかたちを与える。2011年の東日本大震災以降は、津波で壊れたものを「なのおす」実践に集中的に取り組む。直近の展示に、瀬戸内国際芸術祭《帰る着く家ー瀬戸内粟島古家滞留積層脳海図像・2025》(粟島)

会場アクセス



JR秋田駅西口より徒歩15分

中心市街地循環バス「千秋公園入口」バス停より徒歩5分

会 期

2026年01月24日(土)-02月01日(日)

10:00-18:00(入場無料)※休館日01月27日(火)

お問い合わせ

秋田公立美術大学 学生課

018-888-8105(平日 8:50-17:15)

主催：秋田公立美術大学大学院 複合芸術研究科